

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林 明夫

1. はじめに

(1) 今回のメインテーマである「カリキュラム」「学習システム」「新規コース」の前提となる「学力とは何か」について、昨日(12月4日夕刻)OECD(経済協力開発機構)から2006年度PISA(15歳時学習到達度調査)の結果が発表になった。また、今春には「全国学力調査」が行われ、「新学習指導要領」が大幅に改正される予定でもある。

「PISA 調査委」「全国学力調査」「新学習指導要領」などの基底に流れる「学力観」とは何かといえ、OECD が示した「キー・コンピテンシー」の考えであると私は確信する。

(2) そこで、学習塾経営者であっても、世界や日本の教育政策の基底に流れる「キー・コンピテンシー」という学力観について正確な「理解」をした上で自らの業務を遂行すべきと考える。

(3) 私が皆様にできることといえ、その存在をお示しすることと、私が理解した範囲でその解説を加えることであると考えます。

①ドミニク・リーベン他編「キー・コンピテンシー」明石書店 2006 年刊の中の「コンピテンシーの定義と選択(200～224 ページ)」を研究用資料として是非御熟読下さい。

②その解説を明日(12月6日)午前10時より行いますので、お時間のある方はお出掛け下さい。

(4) 「キー・コンピテンシー」の研究は、OECD が人類の未来を願い、その総力をあげて行ったもので、日本政府も全面的に協力したものです。『PISA のねらいは「キー・コンピテンシー」の枠組みを根拠とする知識や学習に対して、個人がどの程度の思慮深いアプローチをしているかを知ることにある(前掲書 219 ページ)』といわれております。

(5) お読み頂き、御理解頂ければおわかりになると思いますが、「キー・コンピテンシー」の具体的内容である「①道具を相互作用的に用いる(能力)」「②異質な集団で交流する(能力)」「③自律的に活動する(能力)」の各々の構成要素はすべて、教育的●●●

2. 「カリキュラム」「学習システム」「新規コース」

(1) 本年4月に、中学1・2年生については、これまでの週2回から週3回の指導にするという大幅な変更をしましたので、中1・中2はその定着を図りたく考えます。

(2) 小学部は、「小学校での英語指導」が本格化する前に、明確なカリキュラムを組むことができるよう最後の調整に入りたく考えています。

(3) 韓国の「学院」では、中学1年生から「トーイック」、高校生は「トーフル」の指導をしていることを知りましたので、開倫塾では、小学5年生から英語を勉強し始めた塾生は、小5で英検5級、小6で4級、中1で3級、中2または中3で準2級、中3または高1で2級に合格させた上で、「トーイック」「トーフル」「大学入試」の対策をしようと考えております。

(4) 「学力の定着」が、大半の塾生の課題です。「勉強の仕方の学習」 Learning To Learn (学ぶことを学ぶ) スキル (学習)、とりわけ「定着」のための学習方法を身に付けさせたく考えています。

＊①音読練習 ②書き取り練習 ③計算練習

(5) 学校や塾で学ぶことは世の中に出て役に立つかどうかかわからないで勉強している人もいます。何のために学ぶのかわからず、また考えもせずにいる人も多いようです。そして、次の学校に行って何をするのかを考えずにいる人も多いようです。「教育成果」は、「本人の自覚」と「教師の力量」により決定され则认为ます。「合格するにはどうしたらよいか」を教える前に、「次のところに行ってどうするのか」を考えさせることで「本人の自覚」を促すのも、「教師の力量」と考えます。

(6) 各市の私立中学校入試にも、本格的に取り組みたいです。

3. 「学費」…変更しせず

4. 「生徒募集」

(1) 早目早目の生徒募集を心掛けたい。

(2) 継続 100 % を目指したい。(退塾ゼロを目指したい)

(3) 専門職不足。「生徒募集の前に講師募集、講師研修・授業研究」

5. おわりに

(1) 「学習塾の役割は、学校教育を補うこと」と考えてやってきましたが、補うことが余りに多い。

(2) 「高校生の学力不足」が最大の課題と見え、高校部の指導に励みたい。

— 来年もよろしくお願い致します。 —